

世界恐慌後の日本経済 ☆政友会の¹積極財政…²高橋是清蔵相<犬養・斎藤・岡田内閣>

A. ³金輸出再禁止と⁴円兌換の停止(⁵1931.12) = 金本位制から離脱

↳ ⁶管理通貨制度へ移行 予算の増額 → 紙幣・赤字公債の発行 → ⁷インフレの進行
↳ 円為替相場下落 = ⁸円安 → ⁹輸出の急増 <例>¹⁰綿織物は世界第1位

※¹¹ドル買い事件…財閥等は、政友会内閣への交替→金輸出再禁止→急激な円安ドル高を予測して大量に円売り=ドル買いを実行し、円安で莫大な利益を得た。

B. ¹¹軍事費の急増 …歳出の28%(1930)から47%(1936)へ

↳ ¹²重化学工業の発達 …¹³1933年には繊維工業を上回る

(a) 製鉄大合同…官営八幡製鉄所中心に民間製鉄会社を併合

→¹⁴日本製鉄会社(1934)…半官半民の国策会社 鋼鉄の自給が可能に

(b) ¹⁵新興財閥の台頭 → 朝鮮・満州へ

<例>¹⁶日本産業株式会社(¹⁷鮎川義介) → ¹⁸日産 コンツェルン

¹⁹日本窒素肥料会社(²⁰野口 遵) → ²¹日窒 コンツェルン

²²理研コンツェルン(大河内正敏)、²³森コンツェルン、²⁴日曹コンツェルンなど

結果 好況…²⁵1933年頃には大恐慌以前の生産水準を回復

輸出 イギリスなど…日本の輸出急増を「²⁶ソシアル・ダンピング」(たたく売り)と批判
高率関税で抵抗(²⁷ブロック経済圏の強化)

輸入 ²⁸アメリカへ依存…綿花、石油、屑鉄、機械、等々 ← 重工業の発達

【時代順問題に挑戦】 <2008年度A本試験より>

I ① 関東軍が、柳条湖で満鉄の線路を爆破した。

II ③ 陸軍の青年将校らが、部隊を率いて政府要人や重要施設を襲撃した。

III ② 海軍の青年将校らが、犬養毅首相を射殺した。

右傾化と二・二六事件 ※右傾化…国家主義的傾向

29 齋藤実内閣 1932. 5~34. 7 ※日満議定書(満州国承認)→国際連盟脱退

(a)無産政党(合法：社会民主主義)の右傾化

社会民衆党(右派) → 日本国家社会党(1932)…赤松克麿ら 国家による社会主義を主張
全国労農大衆党(中間派) → 30社会大衆党(1932)…政友会・民政党への対抗から陸軍に接近

(b)31 滝川事件(1933)…学問と大学の自治への弾圧 ※文部大臣鳩山一郎

反国体的危険思想として32 滝川幸辰 (京大)休職、著書『33刑法読本』等の発禁
→法学部全教授が抗議の辞表、学生も反対 →佐々木総一、末川博らも辞職

(c)共産党(非合法)の壊滅と34 転向 (~1935)…35 治安維持法と36 特高(特別高等警察)

<例>37 小林多喜二 虐殺(1933)、野呂栄太郎 獄中死(1934)、佐野学・鍋山貞親ら 獄中で転向声明(1933)

転向者続出 ←

38 岡田啓介内閣 1934. 7~36. 3 ← 齋藤内閣は39 帝人事件(疑獄事件)で総辞職

… 齋藤内閣の海軍大臣 海軍大将・穩健派 ロンドン軍縮会議で尽力 与党：民政党

※これ以降、首相は 40 重臣会議(元老西園寺+内大臣・枢密院議長・首相経験者ら)で指名

(a)『41 国防の本義と其強化の提唱』(42 陸軍パンフレット 1934)

「たたかいは創造の父、文化の母である」→以後、軍部が公然と政治に介入

国際協調(軍縮)の否定 1934. 12 43 ワシントン海軍軍縮条約の破棄をアメリカへ通告

1936. 1 第2次ロンドン軍縮会議から脱退

(b)44 天皇機関説問題(1935)…貴族院で反国体的として問題化(不敬罪で告発)

→岡田内閣、45 国体明徴声明 (1935)…「統治権の主体は天皇」と明言

46 美濃部達吉(東大)は貴族院議員を辞任、47 著書は発禁(『憲法撮要』『憲法講話』)

(c)陸軍内部 48 統制派 …革新官僚(新官僚)と結び合法的手段での権力掌握 49 民政党と接近

の対立 ⇕ 永田鉄山(軍務局長)・東条英機ら幕僚クラスが中心

50 皇道派 …直接行動(クーデター)での政権奪取 大尉~少尉級が中心

真崎甚三郎(教育総監)・荒木貞夫らを首領 51 政友会に接近

1934. 52 十一月事件(士官学校事件)…統制派の摘発で皇道派逮捕 →真崎の(陸軍教育総監)罷免

1935. 53 相沢事件…皇道派将校相沢三郎らが、統制派の永田鉄山を斬殺

⇨ 54 二・二六事件(55 1936. 2/26) ※2月20日の総選挙で政友会大敗

56 皇道派の陸軍青年将校らが蜂起 兵士約1400名 57 北一輝・西田 税ら右翼の思想的影響

「天皇親政」を目指し、首相官邸、警視庁などを襲撃、周辺一帯を占拠 ※東京に戒厳令

(58 齋藤実(内大臣・前首相)、59 高橋是清(蔵相)、渡辺錠太郎(陸軍教育総監)らを殺害

鈴木貫太郎(侍従長)は重傷、岡田啓介首相は辛うじて脱出

→反乱軍として3日後に鎮圧、将校は処刑(北一輝も)

→60 陸軍内では皇道派が一掃され、統制派による支配強化

世界恐慌後の日本経済 ☆政友会の¹積極財政…²高橋是清蔵相<犬養・斎藤・岡田内閣>

A. ³金輸出再禁止と⁴円兌換の停止(⁵1931.12) = 金本位制から離脱

↳ ⁶管理通貨制度へ移行 予算の増額 → 紙幣・赤字公債の発行 → ⁷_____の進行
↳ 円為替相場下落 = ⁸_____ → ⁹_____の急増 <例>¹⁰綿織物は世界第1位

※¹¹ドル買い事件…財閥等は、政友会内閣への交替→金輸出再禁止→急激な円安ドル高を予測して大量に円売り=ドル買いを実行し、円安で莫大な利益を得た。

B. ¹¹軍事費の急増 …歳出の28%(1930)から47%(1936)へ -----

↳ ¹²重化学工業の発達 …¹³1933年には繊維工業を上回る

(a) 製鉄大合同…官営八幡製鉄所中心に民間製鉄会社を併合

→¹⁴日本製鉄会社(1934)…半官半民の国策会社 鋼鉄の自給が可能に

(b) ¹⁵新興財閥の台頭 → 朝鮮・満州へ

<例>¹⁶日本産業株式会社(¹⁷鮎川義介) → ¹⁸_____ コンツェルン

¹⁹日本窒素肥料会社(²⁰野口 遵) → ²¹_____ コンツェルン

²²理研コンツェルン(大河内正敏)、²³森コンツェルン、²⁴日曹コンツェルンなど

結果 好況…²⁵1933年頃には大恐慌以前の生産水準を回復

輸出 イギリスなど…日本の輸出急増を「²⁶ソシアルーダンピング」(たたき売り)と批判
高率関税で抵抗(²⁷ブロック経済圏の強化)

輸入 ²⁸アメリカへ依存…綿花、石油、屑鉄、機械、等々 ← 重工業の発達

【時代順問題に挑戦】 <2008年度A本試験より>

- | |
|------------------------------------|
| I 関東軍が、柳条湖で満鉄の線路を爆破した。 |
| II 陸軍の青年将校らが、部隊を率いて政府要人や重要施設を襲撃した。 |
| III 海軍の青年将校らが、犬養毅首相を射殺した。 |

右傾化と二・二六事件 ※右傾化…国家主義的傾向

29 齋藤実内閣 1932. 5~34. 7 ※日満議定書(満州国承認)→国際連盟脱退

(a)無産政党(合法：社会民主主義)の右傾化

社会民衆党(右派) → 日本国家社会党(1932)…赤松克麿ら 国家による社会主義を主張
全国労農大衆党(中間派) → 30社会大衆党(1932)…政友会・民政党への対抗から陸軍に接近

(b)31 滝川事件(1933)…学問と大学の自治への弾圧 ※文部大臣鳩山一郎

反国体的危険思想として 32 _____ (京大)休職、著書『33刑法読本』等の発禁
→法学部全教授が抗議の辞表、学生も反対 →佐々木総一、末川博らも辞職

(c)共産党(非合法)の壊滅と 34 _____ (~1935)… 35 治安維持法と 36 特高(特別高等警察)

<例> 37 小林多喜二 虐殺(1933)、野呂栄太郎 獄中死(1934)、佐野学・鍋山貞親ら 獄中で転向声明(1933)

転向者続出 ←

38 _____ 内閣 1934. 7~36. 3 ← 齋藤内閣は 39 帝人事件(疑獄事件)で総辞職

… 齋藤内閣の海軍大臣 海軍大将・穩健派 ロンドン軍縮会議で尽力 与党：民政党

※これ以降、首相は 40 重臣会議(元老西園寺+内大臣・枢密院議長・首相経験者ら)で指名

(a)『41 国防の本義と其強化の提唱』(42 陸軍パンフレット 1934)

「たたかいは創造の父、文化の母である」→以後、軍部が公然と政治に介入

国際協調(軍縮)の否定 1934. 12 43 ワシントン海軍軍縮条約の破棄をアメリカへ通告

1936. 1 第2次ロンドン軍縮会議から脱退

(b)44 天皇機関説問題(1935)…貴族院で反国体的として問題化(不敬罪で告発)

→岡田内閣、45 _____ (1935)…「統治権の主体は天皇」と明言

46 美濃部達吉(東大)は貴族院議員を辞任、47 著書は発禁(『憲法撮要』『憲法講話』)

(c)陸軍内部 48 _____ …革新官僚(新官僚)と結び合法的手段での権力掌握 49 民政党と接近

の対立 ⇕ 永田鉄山(軍務局長)・東条英機ら幕僚クラスが中心

50 _____ …直接行動(クーデター)での政権奪取 大尉~少尉級が中心

真崎甚三郎(教育総監)・荒木貞夫らを首領 51 政友会に接近

1934. 52 十一月事件(士官学校事件)…統制派の摘発で皇道派逮捕 →真崎の(陸軍教育総監)罷免

1935. 53 相沢事件…皇道派将校相沢三郎らが、統制派の永田鉄山を斬殺

⇨ 54 二・二六事件(55 1936. 2/26) ※2月20日の総選挙で政友会大敗

56 皇道派の陸軍青年将校らが蜂起 兵士約1400名 57 北一輝・西田 税^{みつ}ら右翼の思想的影響

「天皇親政」を目指し、首相官邸、警視庁などを襲撃、周辺一帯を占拠 ※東京に戒厳令

(58 齋藤実(内大臣・前首相)、59 高橋是清(蔵相)、渡辺錠太郎(陸軍教育総監)らを殺害

鈴木貫太郎(侍従長)は重傷、岡田啓介首相は辛うじて脱出

→反乱軍として3日後に鎮圧、将校は処刑(北一輝も)

→60 陸軍内では皇道派が一掃され、統制派による支配強化